

# 真嘉比 浩乃さん Hirono Makabi

情報科学系 人間学情報領域

長谷川研究室 博士前期課程 1年

沖縄高専・創造システム工学専攻 情報工学コース 卒業



高専からJAISTへ!

## 学び続ける姿勢

### — JAIST に進学を決めた理由を教えてください。

入試システムが筆記試験ではなく、高専の研究を活かした内容の面接が選考基準になることや、JAIST 出身の高専の先生から話を聞くにつれ、ここで学びたいと思ったことが進学を決めた理由です。情報工学に対する知識をより深めていきたいと思っていたので、進学することは早くから決めていました。実は専攻科2年の夏に別の大学院を受験していたのですが、不合格でした。研究をしながら受験勉強に時間を割くことは想像していた以上に厳しいものでした。特にほとんどの大学院の入試で提出を求められる TOEIC は、私にとってネックでした。英語があまり得意ではないこともありますし、研究に携わっているとなかなか勉強の時間もとれない状況だったからです。対して、JAIST の入試は自分の研究に関する面接でした。研究の説明は高専の研究発表会で経験があったので、イメージがわきやすく実力を発揮できました。自分のこれまでの研究を評価してくれる点もありがたかったです。

### — JAIST は女子学生が少ないというイメージですが、入学前の不安や入ってから設備面も含め不便に感じることはありますか？

見知らぬ土地に親元を離れて行くことになるので、入学前は多少の不安はありました。けれども学生寮が学校のすぐ近くであり、安心して通学できることや、一人暮らしではなく他の学生と一緒に過ごせることが、私としても両親としても安心材料になりました。女子学生が少ないことで、困ったことは全くありません。例えば女子トイレは全ての階に設置されていますし、これは全ての設備に関して言えることですが、清掃が行き届いていて常にきれいです。女子学生が少ないが故に、仲良くなりやすいという面もあります。

### — JAIST に入らなければ得られなかったと思うことはどんなところですか？

高専では、門限など時間や集団生活に関する規則が厳しく定められていますが、大学院では学生の自主性に任されています。そのため高専の頃とは違う雰囲気のある学生生活を楽しむことができます。例えば開発が終わらないと、深夜にみんなで研究室に集まってお菓子を食べながら開発したり、テストや研究発表などが終わった時は友人と料理を持ち寄ったり、外に食べに出かけたりして打ち上げをしています。また同期の女子メンバーやサークル仲間、同じ授業を受けて仲良くなったグループなど、学内に多様な国籍・分野出身からなる交友関係を持てたことも JAIST に入って得られたことの一つです。

### — 余暇時間の楽しみ方などあったら教えてください。

たくさんあるのですが、まず JAIST に来て料理を楽しむようになりました。例えば難しい課題を終わらせた時は自分へのご褒美として、動画サイトで気になっていた料理を作ったりします。時には、その料理を友人と一緒に食べることもあります。また、私は学内のバドミントンサークルや CCC・JAIST という教育工学系のサークルで活動しています。CCC・JAIST では、教育工学の知見を活かして、地域イベントへの参加や社会問題の解決に取り組んでいます。今年は金沢市からまちづくりの業務委託を受け、ワークショップを開催しました。私は資料作成とアプリケーションの開発を担当しました。楽しそうだったことには何でも挑戦したくなる性格で、余暇時間を目一杯活用しています。

### — 研究について教えてください。

私の研究は教育工学という分野で、小学校のペアプログラミング学習に注目した研究を、高専在学時から継続して行っています。ペアプログラミング学習とは、児童が2人1組でペアとなって1つの問題を解く学習形式のことです。小学校で行っている

プログラミングの授業にペアプログラミングを導入すれば、児童が話し合いをしながら楽しく学習できるのではないかと考え研究を始めました。そして高専在学中、実際にペアプログラミング用のアプリケーションを開発し、小学生に授業で使ってもらったのですが、自分が思っていたより話し合いが順調に進んでいないように感じました。そこで、児童の話し合いがうまくいかない時に、サポートしてくれるような仕組みがあればもっと楽しく、効果的にプログラミングの学習ができるのではないかと考えました。そして現在、ペアプログラミング学習の支援システムを開発しています。

### ー カリキュラムは高専の時と比べてどうですか？

高専では、ほぼカリキュラムが定められていますが、JAIST は卒業に必要な単位数を取得するための履修スケジュールを、かなり自由に設計することができます。例えば研究が忙しい時は授業を少なくして、落ち着いた時期に授業をまとめて履修することもできますし、自分の興味のある科目や得意な科目でカリキュラムを組むこともできます。自分の専攻分野に寄らない授業を受けることができるのも、魅力の一つです。例えば私は情報科学系を専攻していますが、知識科学系の授業を多く受講しています。知識科学系の授業は、一つの事象に関してグループディスカッションをしながら答えを導き出すことが多いです。高専の時もディスカッションを行う授業はありましたが、専攻が同じ学生同士では似たような意見が出るのがほとんどでした。しかし知識科学系には多様なバックグラウンドをもつ学生が多く、さまざまな視点から意見が出るため、新鮮で楽しいです。

### ー 将来の目標やなりたい人物像がありましたら教えてください。

私は研究対象にしているくらい「学ぶ」ことが大好きです。学ぶことそのものも好きなのですが、学ぶ過程を通して得た、人との関係性や自分の感情も大事にしています。また、学びの姿勢は学校の授業だけではなく、今後の人生でも必要とされる非常に大切なものです。これからも、自分がおもしろいと思うものを見つけ、学び続けていくことが、私の目標の一つです。そしてもう一つ目標は、何かにつまずいたり、学びに嫌な気持ちをもっている人をさりげなくサポートできる人になることです。これまで私も多くの人に、学校の授業や研究など困っていた時に助けてもらったので、今度は私がそんなカッコいい人になりたいと思っています。私は修士課程修了後は就職する予定ですが、学び続ける姿勢を忘れず誰かを助けることができる人になりたいと思っています。

# From Professor

長谷川 忍 教授

Shinobu Hasegawa

情報科学系 人間学情報領域

### ー 長谷川先生から見た真嘉比さんについて教えてください。

周りを巻き込み引っ張っていく力のある非常にアクティブな人だと思います。通常の大学院は大学からそのまま系列の大学院に進むケースが圧倒的に多く、大学と同じ研究を大学院でも継続して行うことが普通ですが、JAIST には大学院しかなく必ず指導教員が変わるので、入学前と全く同じ研究をすることは難しくなります。けれども真嘉比さんは研究として成立できるように、自分のしたいことをきちんと周りに説明できるとも自立した力を持っています。3月には研究発表を控えていますし、進捗状況も良好で研究においてもこれからが期待される非常に優秀な人物です。

### ー どんな学生が情報科学系に向いていると思われますか？

まず、過去の経歴や専攻分野はあまり関係ありません。私の研究室にも高専出身の学生が多数いますが、電気、電子系から来た人、別の分野から来ている人と様々です。入学後は大学レベルの基礎的な授業からより専門的な授業まで、幅広いカリキュラムが提供されていますので、過去の専攻分野にとらわれる必要はありません。JAIST に来れば、過去の自分を知る人がほとんどいない環境に身を置くこととなります。それは過去を気にせず新しいことにチャレンジできる一つのメリットでありチャンスでもあります。このように本学への進学は「グレートリセット」の意味合いが大きいと言えます。次に明確な目的意識を持っている人が、より有効に JAIST での時間を使えると思います。大学院は研究をするところなので、研究として何がしたいかという意識を持っている、あるいは自分はこういう人間になりたいからこういうノウハウを身につけたいという意志を持つことが重要です。我々が学生にできることは、できるだけ多くの機会を与えることです。その指針のもと、本学は幅広いカリキュラムを用意しています。ある分野に特化して先鋭的なものを学ぼうと思えばできるし、幅広く学んで自分を豊かにしようと思えばそれも可能です。この機会を存分に活用していただくためにも、始めは自分探しをしながらでもいいので、自分の将来像を定め、それに向かって学生生活を送ることで、非常に充実した時間を過ごすことができるのではないかと考えています。